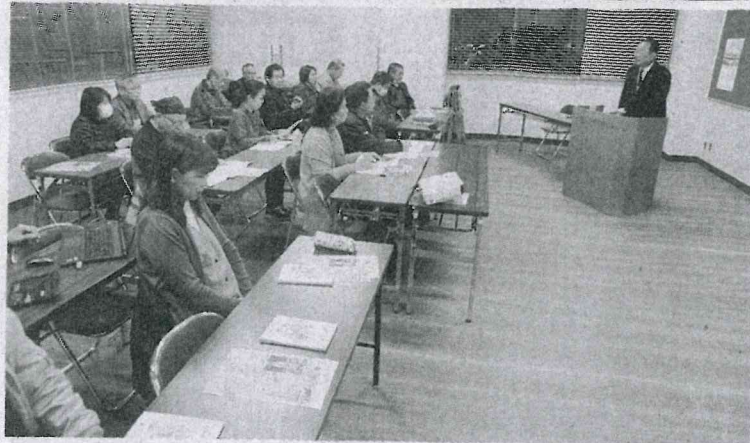


# 延岡がいくどマン養成塾

## 観光協会が主催、7人が受講

市外からの観光客を案内する有償ガイドを育てる延岡観光協会主催の「延岡がいとマン養成塾」が行われている。40〜70代の男女7人が受講。初回の5日は市中小企業振興センターであつた。同協会の谷平興二会長がもつかる観光を目標とするために「何も無いという言葉からは何も生まれない。どうすればいいか」と考えるところから始めよう」と呼び掛け。



谷平会長から延岡観光について話を聞く受講者ら（5日、延岡市中小企業振興センター）

た。同協会の谷平興二会長がもつかる観光を目標とするために「何も無いという言葉からは何も生まれない。どうすればいいか」と考えるところから始めよう」と呼び掛け。昨年のNHK大河ドラマ「西郷どん」放映に関連したテレビやラジオ番組で、延岡が10回クローズアップされて全国放映されたことを紹介。「観光延岡の時代が来て、幕開けた。延岡は観光の宝庫。」

みなさんもいずれかの分野でスペシャリストになり、延岡のために頑張ってほしい」とエールを送った。

受講者は12、13日に城山や愛宕山、今山、西郷隆盛関連について学ぶ。

同養成塾は5回目、これまで約80人が修了している。

# 延岡の食材、魅力を体感

日商青年部

## 日本のひなた宮崎大会分科会

日本商工会議所青年部全国大会「第38回日本のひなたみやぎ大会」の延岡分科会は8日、同市内で開かれ、全国各地の青年部メンバー約70人が、豊かな食材をはじめとする延岡の魅力を感じた。



宮崎ひびビール醸造所で商品を試飲する参加者

同市大貫町のかわまち交流館に集まった参加者を前に、延岡商工会議所青年部（Y E G）の今村聖会長は「たくさん食べて飲んで楽しんでいただき、また来たいと思ってもらえれば」とあいさつ。参加者はその後、2組に分かれて同市行藤町の宮崎ひびビール醸造所、同市祝子町の佐藤焼酎製



昼食会では延岡の食を提供

造場に向かった。このうち宮崎ひびビール醸造所では、同社員からビールの種類や醸造過程の説明が行われたほか、同醸造所の代表的な銘柄「太陽のラガー」黒の試飲もあった。飲食関係の業務に携わって

いるという静岡商工会議所青年部の齋藤理事は「世界一の称号を得た『栗黒』の話や味がとても参考になった」と笑顔。静岡は来年のホストでもあることから、金さんらは分科会のスケジュールや見学コースなどについても熱心に確認していた。見学を終えた参加者は、かわまち交流館に戻って昼食会へ。バイキング形式のメニューは、チキン南蛮はじめ、メヒカリのから揚げ、みやぎき地頭鶏炭火焼き、冷汁など郷土料理がすなり。へべすぷりに舌鼓を打った千葉県の柏商工会議所青年部の中村善信理事は「（来県、来延してから）食べる物がどれもおいしい。関東とは調味料の味も違って興味深い」と話した。

第38回日本のひなたみやぎ大会は6日から10日まで宮崎市を中心に開催され、全国のY E G会員ら約6千人が参加。分科会は県内9カ所で開催され、懇親会やツアーイベントなどを通して各地域の魅力伝えた。分科会部会長を務めた延岡Y E Gの高村俊一郎さんは「PRの手応えは十分。過去の大会で知己を得た他県の方々の交流も続いているので、築いたパイプをしっかり生かしていきたい」と話した。

# 柔道選手 ドイツ 選手 延岡市「第九」で歓迎

## ドイツ選手 16日まで 旭化成などで合宿

2020東京五輪を見据え、ドイツ柔道連盟男子代表選手の延岡合宿がきょうから、同市の旭化

成柔道場などではじまった。きょうは市役所で市民らが「第九」の合宿で

のシユペッカー・ノルベルトさん(54)は「すごい歓迎。みんなびっくりしていた」と喜んで

いた。同市は、東京五輪・パラリンピックのドイツホ

ストタウン。これまで、2回の合宿を実施しており、今回は東京五輪に出場する可能性が高い男子9選手とスタッフ4人。旭化成柔道部の協力を受けて、16日まで合宿する。きょうは先月、フランスであったグランドスラム・パリ81級金メダルのレッゼル・ドミニク選手(25)など8人が市役

所を訪れ、のべおか第九を歌う会(今村愛子会長)の会員約30人が歌声で歓迎。市長室では読谷山洋司市長が「延岡は30年以上、年末に第九の演奏会が開かれるなどドイツ文化に親しんでいる街。柔道の聖地とも言えるので、ぜひ有意義な合宿を」とあいさつした。



到着ベルが「ばんば踊り」のメロディーに変わったことを受け、延岡駅であった記念式典（10日）

# 「ばんば踊り」のメロディーで出迎え

JR延岡駅

## 到着時に自動放送

3/11 10日 くす玉、太鼓で記念式典

延岡市のJR延岡駅で列車接近時に流れる到着ベルが10日から、市民に親しみの深い「ばんば踊り」のメロディーに変わった。延岡への親しみを感ぜてもらおう取り組みで、地域の特徴を出した到着ベルの導入は県内では日向市駅などに次いで4番目。同日、駅ホームで記念式典が開かれた。

JR九州や延岡観光協会などによると、市民から、延岡の玄関口である延岡駅の利用者に延岡への親しみをより感じてもらえるよう、到着ベルにばんば踊りのメロディーを流してほしいと依頼があり、延岡観光協会とJR九州が連携して導入の準備を進めてきた。

「踊り」が流れる。記念式典で、延岡観光協会の吉岡由華常務理事は「到着時にばんば踊りが流れることで、延岡に親しみを感じてほしい」ともあった。

延岡駅を行き来する列車は約80本（貨物含む）。列車が接近すると、ばんば踊りのメロディー約8秒と、到着を知らせる男性や女性の自動音声放送が続く。県内では日向市駅のほか宮崎駅、宮崎空港駅で、地域に親しみがわくメロディーを導入。日向市駅では「ひよっと

続いて、ばんば踊りのメロディーの自動放送を合図に、ホームに入ってきた大分発宮崎空港行きの特急「にちりん5号」を出迎え。出発式後に関係者でくす玉を開き、導入を祝った。太鼓打ちを披露した一ヶ岡小学校6年の鶴輪隼永君（12）は、「到着の時にばんば踊りが流れてうれし」と話していた。